

SL復元検討に関する市民説明会の結果について

(1)開催日程

①明智会場

日時 令和6年10月15日(火) 午後7時30分から8時40分

場所 明智文化センター大ホール

参加者 115人

②岩村会場

日時 令和6年10月17日(木) 午後7時30分から8時20分

場所 岩村コミュニティセンター大会議室

参加者 40人

③恵那会場

日時 令和6年10月18日(金) 午後7時30分から8時30分

場所 恵那市市民会館第1・2会議室

参加者 40人

(2)内容

SL復元を通じた地域づくりに向けた取り組み状況

(3)意見、質問など

全体 市民からは、移住増への期待や、復元に向けて応援したいといった賛成意見のほか、市内全域での取組を希望する意見があった。また、赤字の場合の補填方法や、SDGsの取組との関連性、運行年数についての質問があった。

主な質問

Q1:維持管理費1億4,600万円に対して、運賃収入8,550万円。残り6,000万円はどうするのか？税負担か？

→ 国・県・市の補助金を活用することを想定。市税の負担とならないよう、ふるさと納税やクラウドファンディング等で賄う仕組みを考えている。

Q2:当初計画の1往復から3往復へ変更すると、明鉄の日常生活路線に影響及ぼさないか？

→ 明知鉄道と協議して、生活路線に影響のないダイヤで3往復とした。

Q3:SL復元運行できれば、移住者が増え、市の魅力が上がるのが期待でき賛成したい。が、SDGsの取組みに石炭を使うことは逆行しないか。

→ バイオ燃料やカーボンオフセットを活用するなどを検討していく。

Q4:市民説明会を3回行うのみで、復元可否の判断を行うのか？説明不十分である。QRコードを使った調査や市民意識調査を行うべきだ。

→ 検討する。

※毎年実施する「市民意識調査」にSLに関する項目を加えていたことを失念

「明知鉄道でSLを走らせる取り組みを推進することについて、期待することやご意見、ご要望」に対して、回答者の半数以上が「期待する」と回答。詳細は後日、公表。

Q5:SL復元したら、何年継続させるのか？

→ 可能な限り運行する。

Q6:阿木駅で列車が行違いできるように改修したらどうか？

→ 中津川市と相談が必要となる。

Q7:夢へのチャレンジであり、応援したいが、デメリット等を含めた経営のリスクも理解していく必要がある。反対がある場合の意見も含めてほしい。

→ 参考にさせていただく。

Q8:リニア開業に向けて、まちづくりハード事業ばかりだ。新たな取り組みを行う場合は、スクラップ&ビルドも必要と考える。

→ SL復元の検討は、総合計画において、リニア開業に向けたまちづくり、リニアまちづくり基本構成でのSL復元検討調査と位置付けられている。

(その他)

【市民説明会後の広報直行便による追加質問】

Q9:運賃収入8,550万円の根拠は？

→ 客車1両あたり44名乗車、2両編成、平均乗車率を7割、利用者を大人9割、小人1割、大人運賃:最大1,6千円、小人運賃:最大0.8千円、一日当たりの片道運行回数を6回、年間運行日数を150日=8,550万円と試算

Q10:平均乗車率62%の根拠は？

→ 70%を想定。他のSL運行事業者からのヒアリング参考に、第1・6便は50%、その他は80%とすると平均70%となりこの数値を適用。

Q11:2023年度の明知鉄道の平均乗車率は何%か。通勤通学等の一般車両の場合と季節の観光列車等の場合の2通り知りたい。

→ (明知鉄道に確認)平均乗車率の算出は行っていない。。

Q12:(Q4 関連)市民説明会で、「3回の説明会では不十分ではないか。少なくとも、住民対

象の意識調査をすべきではないか。もしそれができないのであれば、QR コードを使ったスマホによるアンケート調査を実施したらどうか。」と発言に対し、交通政策課は、「今後、検討してまいります。」との回答であったがその後の対応は。

→ SL 復元検討については、今回の市民説明会に加えて市民意識調査を実施。今年度の調査で、「明知鉄道で SL を走らせる取り組みを推進することについて、期待することやご意見、ご要望」を調査項目としており只今集計中。

Q13:11月21日の検討委員会で可否の判断をされる予定とあるが、その判断の材料は。

→ 11 月 21 日の第 6 回 SL 復元検討委員会で SL 復元の可否を、まずは検討委員会として判断する。検討委員会で「可」となった場合、その検討結果をもとに、市が復元可能を判断し、最終的に 3 月の市議会定例会に諮る予定。

判断基準については次の通り。

【第 4 回 SL 復元検討委員会資料抜粋】

判断基準(以下の 3 条件を全てクリアできるか)

条件 A:運行開始前までに、イニシャル 10 億 7,500 万円を確保することができるか

条件 B:3 年ごとに迫る全般検査費用 3 億円を継続的に確保できるか

条件 C:地域の頑張りにより、経済波及効果を見出す事業となっているか(11 億円の経済波及効果に向けた実施内容を積み上げ)

Q14:(Q12 関連)市民意識調査とは、単に「期待することやご意見、ご要望」を訊くということか。QR コードを使って、スマホから行うという方法ではない。アンケート調査を行わない理由は。

→ 市民意識調査は全市民でなく、無作為に抽出した方が対象となる。調査内容は SL 復元の是非を問うのではなくご意見をいただく形で調査。当初の計画から広く市民の方に周知する手法として市民意識調査と市民説明会を行うことが良いと判断。アンケート調査は行わない予定。

Q15:3条件の判断基準にある条件 B は、年間6000万円あまりの赤字以外に継続的に発生する費用(年間約1億円)と考えてもよいのか。

→「3 年ごとに迫る全般検査費用 3 億円」は年間必要額の 6,000 万円に含まれている。SL の維持については全般検査(車でいうところの車検)を行う必要があり、1 回の全般検査で概ね 3 億必要となる。これを年平均にならすと運賃収入以外に年間必要な額が 6,000 万円となる。



(岩村会場)



(恵那会場)

SL復元検討に関する市民説明会

①SL復元の目的

リニア中央新幹線の開業がもたらす大きなインパクトを契機に、市の魅力を最大限に発揮させる取り組みの一つとして、明知鉄道においてSLの復元運行を通じて市内の多様な団体が連携し、地域の魅力を発信及び恵那市にしかない高付加価値な観光や産業の振興により、地域の活性化に結びつけることを目的とします



②検討組織

明知鉄道の線路を活用し、SL運行が可能かの調査検討を行う組織として市内関係者等で構成する「SL復元検討委員会」を令和5年11月に設立し、現在までに5回検討委員会を開催しました。合わせて、専門分野別に議論を行う3つの部会「SL復元検討部会、特産品観光部会、環境整備部会」をそれぞれ開催し検討しています。

③リニア開業とSL復元運行に期待される効果

恵那市の地域の歴史と未来をつなぎ、夢を乗せて走るSL

蒸気と共に歩む未来 ～SL復元プロジェクト～

変わる恵那の暮らし

- ・ 交流人口の拡大
- ・ 恵那市の魅力度の向上と地域への愛着・郷土愛の向上
- ・ 転入者や若年層の移住定住の増
- ・ 通勤圏内の拡大
- ・ SLが走る町としての誇り
- ・ SLを生かした地域の活性化とまちづくりの発展

観光産業の発展

- ・ 全国や世界からの観光客の増
- ・ 新たな観光資源による地域経済の活性化
- ・ 地元の企業活動の活性化
- ・ 新たな雇用の確保
- ・ ビジネスの可能性の広がり
- ・ 恵那ブランドの強化

SL復元運行で地域を活性化

④経済波及効果

経済波及効果を生み出すためには、地域の皆様の力と創意工夫が必須です！

SLの運行をきっかけに多くの観光客の方が恵那市に訪れ、市内観光商業事業者が付加価値の高いサービスを提供することによって、

経済波及効果：11億5,600万円／年

※乗客等1人当たり約2万1千円を恵那市で観光消費

市内関係者が連携した高付加価値な恵那市独自の商品を提供



SL復元運行の効果を市内13地域へ



SL乗車で訪れた人を地域へ呼び込む

首都圏・中部圏家族やインバウンド、友達、おひとり様などの「ターゲット別」に恵那を周遊できるモデルコースを作成して適格に誘客を行い、経済波及効果（観光消費額）の増を図ります。

⑤運営組織(案)

1. 体制の考え方

SLを新たな観光資源として開発し、SL観光事業を通じて地域の活性化を図るため、観光・経済団体、市民、市が一丸となって事業を推進する組織を設立します。

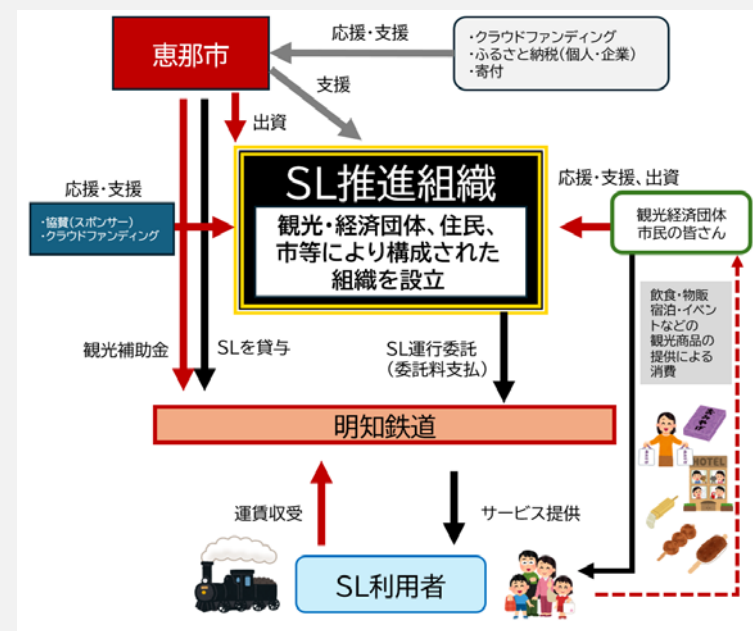


2. 役割

種別	実施者	実施内容
運営主体	SL推進組織	経営責任・SLを活用した地域の活性化の推進 (誘客企画・プロモーション など)
運行受託者	明知鉄道	SLの運行・管理
応援・支援 盛り上げ活性化	市・市民 観光経済団体 等	応援・支援、出資、地域のおもてなし、 イベント開催、商品開発、旅行商品 など



3. 体制図



⑥SL運行の想定 費用と収入



恵那市公式キャラクター「エーナ」



Q1. SLの運行はどんな想定をしているの？

A1. 土日祝日の年間150日
恵那～岩村～明智駅を3往復

Q3. 運賃はいくらを想定してるの？

A3. 明智～恵那間ですと、1,690円
(運賃690円+指定席1,000円)

Q5. SLを復元する費用はいくらで、収入(財源)はどうやって確保するの？

A5. **SLの復元費用等(イニシャルコスト) 10億7,500万円**(車両関係、人材育成、試験運行、保線関係、付帯設備)
収入は、補助金(国・県・市)、ふるさと納税(企業・個人)、クラウドファンディング、協賛などを想定しています。

Q6. SLの維持管理費はいくらで、収入(財源)はどうやって確保するの？

A6. **SLの維持管理費(1年間のランニングコスト) 1億4,600万円/年**が必要となります。
収入は、運賃収入、補助金(国・県・市)、ふるさと納税(企業・個人)、クラウドファンディング、協賛などを想定しています。

Q2. SLってどの車両を想定してるの？

A2. 現在明智駅で乗車体験を行っているC12 244
恵那中央図書館にあるC12 74の2両

Q4. どんな車両編成で運行を想定してるの？

A4. SLと現在明知鉄道で運行している
車両(気動車)を改良して運行する3両編成

⑦今後の協議

第6回目のSL復元検討委員会(11月21日)においてSL復元の可否を判断を予定しています。

※本資料はSL復元に向けた検討資料であり、SL復元運行が決定したものではありません

詳しい内容は市ウェブサイト
SL復元検討委員会ページで
ご確認ください。

